

保険料水準統一について

1 統一の目的

これまで主に負担を担ってきた現役世代が減少し、保険者規模が縮小していくことから、都道府県単位化の趣旨の深化を図り、安定的な財政運営や効率的な事業を確保しつつ、本県の国保制度の「望ましい均てん化」を図る必要がある。

2 統一の効果

(1) 被保険者間の公平性の確保

現状

○被保険者からみると、不公平感がある。

- ・医療費水準が高い市町村に住んでいるというだけで、保険料負担が高くなっている。
- ・保健事業や各種給付、減免制度等が市町村ごとに異なる。



保険料水準の統一

○県内のどの市町村でも、同じ保険給付を同じ保険料負担で受けられることで被保険者の公平性が確保できる。

○保険料水準の統一と同時並行で、国保事業の方針を統一的に定めていく必要があることから、県内のサービス水準の格差解消につながる。

(2) 保険料変動の抑制による国保財政の安定化

現状

○国民健康保険は小規模な保険者が多く、特に小規模な保険者において、高額な医療費が発生した場合に、保険料が変動し、財政運営が不安定になる。



保険料水準の統一

○医療費水準について、市町村単位で保険料に反映させるのではなく、県単位で反映させることとなり、高額な医療費の発生等による年度間の保険料の変動を抑制することができ、国保財政の運営を安定化できる。